

平成29年度三重県公営企業会計（病院事業庁）

決算審査意見書概要説明

平成30年9月

三重県監査委員

平成 29 年度三重県公営企業会計（病院事業庁）

決算審査意見書概要説明

第 1 審査の概要

審査の対象は、病院事業庁が経営する平成 29 年度の三重県病院事業会計です。

決算の審査は、知事から提出された決算書類の内容について、

- ① 決算の計数は正確であるか
- ② 決算諸表は、経営成績及び財政状態を適正に表示しているか
- ③ 予算は、計画的かつ効率的に執行されているか
- ④ 事業経営は、常に経済性の発揮及び公共の福祉を増進するよう運営されているか

などを重点に、会計諸帳票、証拠書類との照合精査を行うとともに、必要な資料の提出を求め、関係当局の説明を聴取し、併せて定期監査、例月出納検査等の結果を参考に、慎重に審査を行いました。

第 2 審査の結果及び意見

1 審査の結果

病院事業の決算諸表は、地方公営企業法及び関係法令に則り、病院事業庁会計規程に基づいて作成されており、その計数は正確であり、経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認められます。

また、事業の経営については、以下の意見のとおり留意又は改善を要するものを除き、概ね適正に処理されているものと認められます。

(以下、この概要説明においては、金額は万円未満を切り捨てています。)

2 審査の意見

(1) 平成29年度決算と中期経営計画に基づく病院事業の運営について

平成29年度病院事業会計の経常損益及び純損益は、いずれも3,011万円の黒字となっていますが、28年度決算に比べ8,165万円減少しています。

これにより、当年度未処理欠損金（累積欠損金）は、前年度に比べわずかながら改善したものの、依然として、約92億円と多額であることから、引き続き、経営の健全化に努めていただきたい。

また、「三重県病院事業 中期経営計画(平成29年度～平成32年度)」(平成30年3月一部改定)に基づき、各年度における成果目標等の進行管理を行っていますが、目標未達成の項目が多くありますので、各病院がそれぞれの役割・機能を十分に発揮できるよう、引き続き、計画の着実な推進を図っていただきたい。

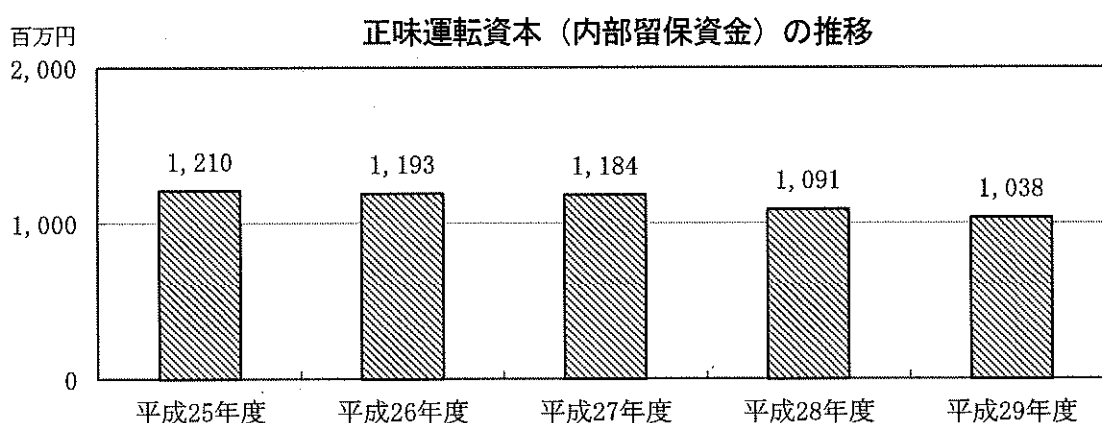
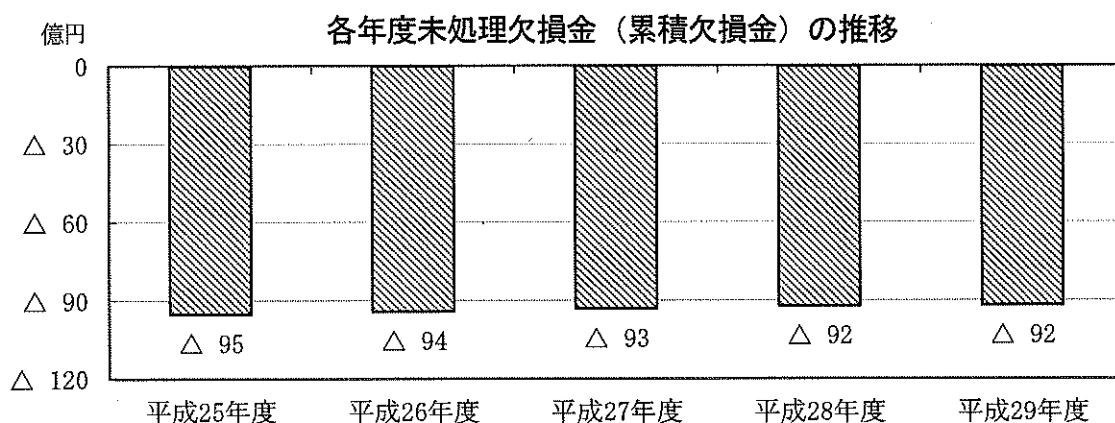
なお、平成29年度の各病院の収支状況及び留意事項については、次のとおりです。

収益的収支の状況

(単位：円)

病院名等	区分	平成29年度(A)	平成28年度(B)	比較増減(A)-(B)
こころの医療センター	医業損益	△ 972,826,134	△ 832,414,044	△ 140,412,090
	経常損益	△ 74,558,031	25,688,798	△ 100,246,829
	純損益	△ 74,558,031	25,688,798	△ 100,246,829
一志病院	医業損益	△ 241,869,457	△ 235,332,961	△ 6,536,496
	経常損益	91,344,968	88,295,833	3,049,135
	純損益	91,344,968	88,295,833	3,049,135
志摩病院	医業損益	△ 977,075,516	△ 1,112,929,615	135,854,099
	経常損益	13,331,587	△ 2,210,903	15,542,490
	純損益	13,331,587	△ 2,210,903	15,542,490
県立病院課	医業損益	△ 100,363,394	△ 104,523,897	4,160,503
合計	医業損益	△ 2,292,134,501	△ 2,285,200,517	△ 6,933,984
	経常損益	30,118,524	111,773,728	△ 81,655,204
	純損益	30,118,524	111,773,728	△ 81,655,204

(注) 医業損益は、医業収益から医業費用を差し引いたもの。経常損益は、医業損益に医業外収益を加えて医業外費用を差し引いたもの。純損益は、経常損益に特別利益を加えて特別損失を差し引いたもの。なお、志摩病院は指定管理者の収支を含んでいない。



(注) 正味運転資本（内部留保資金）

現金預金及び1年以内に資金の収入が見込まれる流動資産（貸倒引当金を除く）から、1年以内に資金の支出が見込まれる流動負債（企業債・引当金を除く）を差し引いたもので、資金繰りの状況を示す数値。

ア こころの医療センター

経常損益、純損益とも7,455万円の赤字となり、前年度に比べいずれも1億24万円悪化しています。これは、入院及び外来収益の減少により医業収益が減少したことなどによるものであり、経常損益が赤字となったのは、平成16年度以来のことです。

このため、平成29年3月に運用を開始したデイケアステーションの適切な運用等による外来患者の確保、診療報酬改定への的確な対応や適切な病床運用による診療単価の向上等により医業収益の増加に努めるとともに、経費や材料費等の医業費用の見直しを行うなど、経営の健全化に取り組んでいただきたい。

また、「入院医療中心から地域生活支援中心へ」という精神科医療の

方向性を踏まえ、精神科医療の中核病院としての役割を担いながら、多様な医療ニーズに応じたきめ細かなサービスの提供に努めていただきたい。

イ 一志病院

経常損益、純損益とも 9,134 万円の黒字となっており、前年度に比べいずれも 304 万円増加しています。これは、入院収益の増加に加え、津市からの受託料が増加したことなどによるものです。

引き続き、入院・外来患者や健康診断等受診者の確保等を通じて収益の増加を図るなど、健全経営に努めていただきたい。

また、過疎化、高齢化が進み、住民の医療ニーズがより一層高まっている中、幅広い臨床能力を有する総合診療医の育成拠点施設としての役割を果たすとともに、総合診療医を中心としたプライマリ・ケアの実践や津市が取り組む地域包括ケアシステムの構築を支援するなど、引き続き、地域に最適な医療サービスの安定的な提供に努めていただきたい。

ウ 志摩病院

志摩病院では、平成 24 年度に指定管理者制度を導入して以降、県と指定管理者の基本協定（平成 24 年度～33 年度）に基づき、稼働病床の段階的増床や内科系における 24 時間 365 日の救急受入体制などが実現し、30 年 4 月からは産婦人科に常勤医師が配置されたところです。

しかしながら、常勤医師数が目標人数を大きく下回っており、外科系における救急受入体制の回復や一部診療科における常勤医師の配置などが進んでいません。

このような状況を踏まえ、指定管理者と十分な連携を図り、常勤医

師の確保やさらなる救急受入体制の拡充など診療機能の充実強化に取り組むとともに、回復期機能も有する地域の中核病院としての役割を果たすよう努めていただきたい。

【参考】

1 志摩病院決算額（対前年度比較：主な項目のみ）

（単位：百万円）

主な項目		平成29年度 (A)	平成28年度 (B)	比較増減 (A)-(B)	主な増減理由
収 益	入院収益	2,504	2,393	111	○延入院患者数（一般＋地域包括ケア病棟）の増 （H28:48,020人→H29:50,677人） ○診療報酬の増（機能評価係数【※】による算定、 地域包括ケア病棟入院料Ⅰによる算定等） ※地域医療支援病院の承認を得たことによるもの
	外来収益	895	894	1	○延外来患者数（一般）の増 （H28:68,620人→H29:69,289人）
	長期前受金戻入	129	140	△ 10	○減価償却費の減少による減
	負担金等	563	547	16	○政策的医療交付金の増 31百万円
費 用	給与費	2,232	2,262	△ 30	○医師給の減 △27百万円 ○看護師給の減 △31百万円 ○その他給の増 22百万円
	材料費	675	663	12	○薬品費の増 22百万円 ○診療材料費の減 △11百万円
	経費	909	868	41	○旅費交通費の増 6百万円 ○消耗品費の増 4百万円 ○光熱水費の増 17百万円 ○修繕費の増 1百万円 ○奨学金費の増 6百万円
	減価償却費	343	401	△ 58	○償却対象資産の減少による減
医業損益		△ 709	△ 870	161	
経常損益		△ 55	△ 230	175	
純損益		△ 55	△ 230	175	

（注）1 決算額については、県決算額と指定管理者決算額の合計額（参考値）である。

なお、県と指定管理者間とのやりとりで二重計上となる収益・費用は除いている。

2 県から指定管理者への赤字補てんである経営基盤強化交付金は含めずに比較している。

3 前年度に比べ、医業損益は約161百万円、経常損益及び純損益は約175百万円それぞれ改善している。

4 四捨五入処理のため、合計額が合わない場合がある。

2 志摩病院における政策的医療交付金、経営基盤強化交付金の推移（支出ベース）

（単位：円）

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
政策的医療交付金 （指定管理料）	465,881,000	474,816,000	481,948,000	485,780,000	516,680,000
経営基盤強化交付金 （赤字補てん）	458,627,730	401,917,304	220,353,668	251,856,487	134,284,272
合 計	924,508,730	876,733,304	702,301,668	737,636,487	650,964,272

3 志摩病院における救急患者の受入体制（平成 28 年 5 月 9 日以降）

（○は毎週、△は隔週で実施）

	区 分	月	火	水	木	金	土	日・祝
内 科 系	昼 間（8:30～17:00）	○	○	○	○	○	○	○
	準夜間（17:00～22:30）	○	○	○	○	○	○	○
	深 夜（22:30～ 8:30）	○	○	○	○	○	○	○
外 科 系	昼 間（8:30～17:00）	○	○	○	○	○	○	○
	準夜間（17:00～22:30）	○			○	○	△	
	深 夜（22:30～ 8:30）					△	△	

（出典）三重県病院事業庁 平成 30 年 5 月例月出納検査追加説明資料

（注） 県と指定管理者の基本協定（平成 24 年度～33 年度）では、「平成 26 年度以降の 24 時間 365 日体制の整備を目標とする。診療時間外の救急外来については、指定管理開始後 3 年を目指して内科系、外科系 1 名の医師を配置し、診療体制の回復に努める。」としている。

4 常勤医師数の推移

← 県直営 → 指定管理 → （単位：人）

診療科等	H24.3	H24.4	H25.4	H26.4	H27.4	H28.4	H29.4	H30.4
内科及び救急・総合診療科	5	7	11	17	11	14	14	11
外科	3	4	3	3	3	3	3	3
整形外科	3	2	2	2	2	2	2	2
脳神経外科	1	1	1	0	0	0	0	0
眼科	1	1	1	1	1	1	1	1
産婦人科	0	0	0	0	0	0	0	1
小児科	0	0	1	1	1	1	1	1
東洋医学・皮膚科	0	0	0	1	1	1	1	1
泌尿器科	1	1	1	1	1	1	1	1
精神科	3	3	3	3	2	2	2	2
放射線科	1	1	1	1	1	1	1	1
緩和ケア	2	2	0	0	0	0	0	0
計	20	22	24	30	23	26	26	24

（出典）三重県病院事業庁 平成 30 年 5 月例月出納検査追加説明資料

（注） 基本協定では、「政策的医療をより充実させるため、常勤医師 41 名体制を目標とし、さらなる医師確保に努める。」としている。

(2) 未収金の回収と発生防止について

平成 29 年度末における病院事業庁全体の診療費自己負担金の未収金（過年度収入未済額）は、前年度に比べ 65 万円減少し、7,617 万円となっています。

未収金の回収については、裁判所を通じての支払督促や弁護士法人への回収委託等を行い、平成 29 年度に 770 万円を回収しているところですが、引き続き、回収に向けての取組を進めていただきたい。

また、平成 29 年度においては、新たに 855 万円の未収金が発生しており、前年度に比べ 440 万円増加しています。引き続き、早期の回収に努めるとともに、病院内の関係者が連携して相談や支援にあたるなど、未収金の発生防止に一層取り組んでいただきたい。

診療費自己負担金の過年度未収金

(単位：千円)

病 院 名	平成29年度末 (A)		平成28年度末 (B)		比較増減 (A)-(B)	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
こころの医療センター	320	53,708	302	49,224	18	4,484
一志病院	21	1,044	24	968	△ 3	77
志摩病院	160	21,419	206	26,638	△ 46	△ 5,219
合 計	501	76,172	532	76,830	△ 31	△ 658

(注) 1 志摩病院分は、指定管理者による運営に移行する以前の未収金（平成 24 年 3 月 31 日までに発生したもの）であり、本庁（県立病院課）が所管している。

2 四捨五入処理のため、合計額が合わない場合がある。

未収金増減の内訳

(単位：千円)

病院名	平成29年度 (A)				平成28年度 (B)				比較増減 (A-B)			
	新規発生 (a)	回収 (b)	不納欠損 (c)	計 (a-b-c)	新規発生 (a)	回収 (b)	不納欠損 (c)	計 (a-b-c)	新規発生 (a)	回収 (b)	不納欠損 (c)	計 (a-b-c)
こころの医療センター	8,239	3,755	0	4,484	4,006	3,404	0	602	4,233	351	0	3,882
一志病院	317	240	0	77	148	146	0	2	169	94	0	74
志摩病院	0	3,712	1,507	△ 5,219	0	1,050	737	△ 1,787	0	2,662	770	△ 3,432
合 計	8,556	7,708	1,507	△ 658	4,155	4,601	737	△ 1,183	4,402	3,107	770	525

(注) 四捨五入処理のため、合計額が合わない場合がある。

第3 経営の概要

1 事業の概況

病院事業は、病院事業庁が総合医療センター、こころの医療センター、一志病院及び志摩病院の4病院を運営してきましたが、平成24年4月からは、総合医療センターが地方独立行政法人に移行したことから3病院になったほか、志摩病院については指定管理者制度を導入しています。

3病院の許可病床数は、平成29年度末時点で計770床です。こころの医療センターは、許可病床数、稼働病床数ともに348床です。一志病院は、許可病床数は86床ですが、療養病床の全40床が休床となっており、稼働病床数は一般病床の46床です。志摩病院は、平成29年4月に一般病床の許可病床数を14床削減して236床とし、精神病床と合わせて336床となっていますが、一般病床52床が休床となっており、稼働病床数は一般病床184床及び精神病床100床の合計284床となっています。

患者数の状況としましては、平成29年度の入院患者数は延べ194,924人（1日平均534人）で、前年度に比べ4,060人減少し、外来患者数は延べ154,642人（1日平均634人）で、前年度に比べ5,816人減少しています。

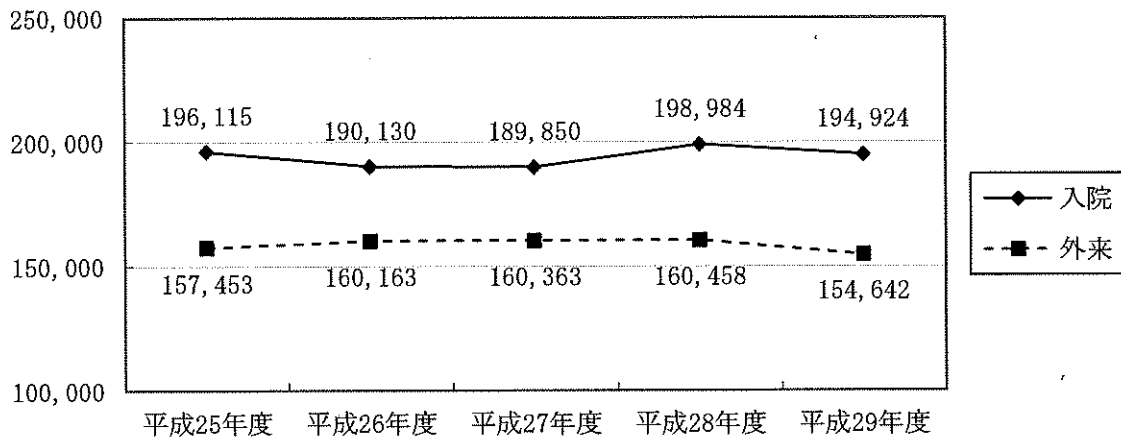
県立病院の概要

平成30年3月31日現在

病院名		こころの医療センター	一志病院	志摩病院
診療科目 (平成29年度 休診中のものを 除く)		精神科、内科、歯科 (内科・歯科は入院患 者のみ対応)	内科、外科、眼科	内科、循環器科、外科、 脳神経外科、小児科、 産婦人科、整形外科、 皮膚科、泌尿器科、 眼科、耳鼻いんこう科、 精神科、神経内科、 放射線科
許可 病床 数	一 般		46 (46)	236 (184)
	療 養		40 (0)	
	精 神	348 (348)		100 (100)
	計	348 (348)	86 (46)	336 (284)

(注) 許可病床数の()は、稼働病床数

患者数の推移 (単位：人)



2 経営成績

平成29年度の総収益は、53億3,652万円であり、前年度に比べ1億6,767万円減少しています。減少した主な理由は、入院・外来収益の減による医業収益の減及び負担金・交付金の減等による医業外収益の減によるものです。

総費用は、53億640万円であり、前年度に比べ8,602万円減少しています。減少した主な理由は、経費の減等による医業費用の減によるものです。

この結果、純損益は3,011万円の黒字となりましたが、前年度に比べ8,165万円減少しています。

病院事業の収益的収支

(単位：円)

科目	平成29年度 (A)	平成28年度 (B)	比較増減 (A)-(B)	比率 (A)/(B)
総収益	5,336,525,962	5,504,205,494	△ 167,679,532	97.0%
医業収益	2,765,971,910	2,847,205,417	△ 81,233,507	97.1%
医業外収益	2,570,554,052	2,657,000,077	△ 86,446,025	96.7%
総費用	5,306,407,438	5,392,431,766	△ 86,024,328	98.4%
医業費用	5,058,106,411	5,132,405,934	△ 74,299,523	98.6%
医業外費用	248,301,027	260,025,832	△ 11,724,805	95.5%
医業損益	△ 2,292,134,501	△ 2,285,200,517	△ 6,933,984	100.3%
経常損益	30,118,524	111,773,728	△ 81,655,204	26.9%
純損益	30,118,524	111,773,728	△ 81,655,204	26.9%

(注) 本表の金額は、消費税及び地方消費税を含んでいない。

3 一般会計繰入金の状況

平成29年度の収益的収入の繰入金は、20億6,709万円であり、前年度に比べ6,130万円減少しています。減少した主な理由は、志摩病院の指定管理者に交付する経営基盤強化交付金に対する繰入金の減によるものです。

資本的収入の繰入金は、4億4,101万円であり、前年度に比べ3億900万円減少しています。減少した主な理由は、志摩病院の退職手当債の償還終了による繰入金の減によるものです。

一般会計繰入金の内訳

(単位：円)

病院名等	区分	平成29年度 (A)	平成28年度 (B)	比較増減 (A)-(B)	比率 (A)/(B)
こころの医療センター	収益的収入	936,081,000	897,202,000	38,879,000	104.3%
	資本的収入	212,820,000	245,727,000	△ 32,907,000	86.6%
	計	1,148,901,000	1,142,929,000	5,972,000	100.5%
一志病院	収益的収入	338,350,000	328,851,000	9,499,000	102.9%
	資本的収入	12,184,000	10,907,000	1,277,000	111.7%
	計	350,534,000	339,758,000	10,776,000	103.2%
志摩病院	収益的収入	690,989,000	798,066,000	△ 107,077,000	86.6%
	資本的収入	214,993,000	492,366,000	△ 277,373,000	43.7%
	計	905,982,000	1,290,432,000	△ 384,450,000	70.2%
県立病院課	収益的収入	101,676,000	104,284,000	△ 2,608,000	97.5%
	資本的収入	1,013,000	1,013,000	0	100.0%
	計	102,689,000	105,297,000	△ 2,608,000	97.5%
合計	収益的収入	2,067,096,000	2,128,403,000	△ 61,307,000	97.1%
	資本的収入	441,010,000	750,013,000	△ 309,003,000	58.8%
	計	2,508,106,000	2,878,416,000	△ 370,310,000	87.1%

(注) 1 収益的収入：病院運営に係る政策的医療及び不採算医療等に要する経費の繰入金

2 資本的収入：建設改良に要する経費の繰入金

第4 病院別の状況

1 こころの医療センター

(1) 患者数の状況

平成29年度の延べ入院患者数は99,207人(1日平均272人)であり、前年度に比べ4,697人減少しています。延べ外来患者数は56,827人(1日平均233人)であり、前年度に比べ4,784人減少しています。

(患者数の推移のグラフは14頁に掲載)

(2) 経営成績

平成29年度の総収益は31億4,879万円であり、医業収益の減等により、前年度に比べ7,432万円減少しています。

総費用は32億2,334万円であり、給与費の増等により、前年度に比べ2,591万円増加しています。

純損益は、前年度に比べ1億24万円悪化し、7,455万円の赤字となっています。

(総収益と総費用の推移のグラフは15頁に掲載)

2 一志病院

(1) 患者数の状況

平成29年度の延べ入院患者数は14,444人(1日平均40人)であり、前年度に比べ541人増加しています。延べ外来患者数は19,308人(1日平均79人)であり、前年度に比べ1,380人減少しています。

(患者数の推移のグラフは14頁に掲載)

(2) 経営成績

平成29年度の総収益は10億341万円であり、入院収益の増に加え、津市からの受託料の増等により、前年度に比べ3,247万円増加しています。

総費用は 9 億 1,207 万円であり、給与費の増等により、前年度に比べ 2,942 万円増加しています。

純損益は、前年度に比べ 304 万円増加し、9,134 万円の黒字となっています。

(総収益と総費用の推移のグラフは 15 頁に掲載)

3 志摩病院

(1) 患者数の状況

平成 29 年度の延べ入院患者数は 81,273 人(1 日平均 223 人)であり、前年度に比べ 96 人増加しています。延べ外来患者数は 78,507 人(1 日平均 322 人)であり、前年度に比べ 348 人増加しています。

(患者数の推移のグラフは 14 頁に掲載)

(2) 経営成績

平成 29 年度の総収益は 10 億 8,182 万円であり、指定管理者に交付する経営基盤強化交付金に係る一般会計繰入金の減等により、前年度に比べ 1 億 2,305 万円減少しています。

総費用は 10 億 6,849 万円であり、指定管理者に交付する経営基盤強化交付金の減等により、前年度に比べ 1 億 3,859 万円減少しています。

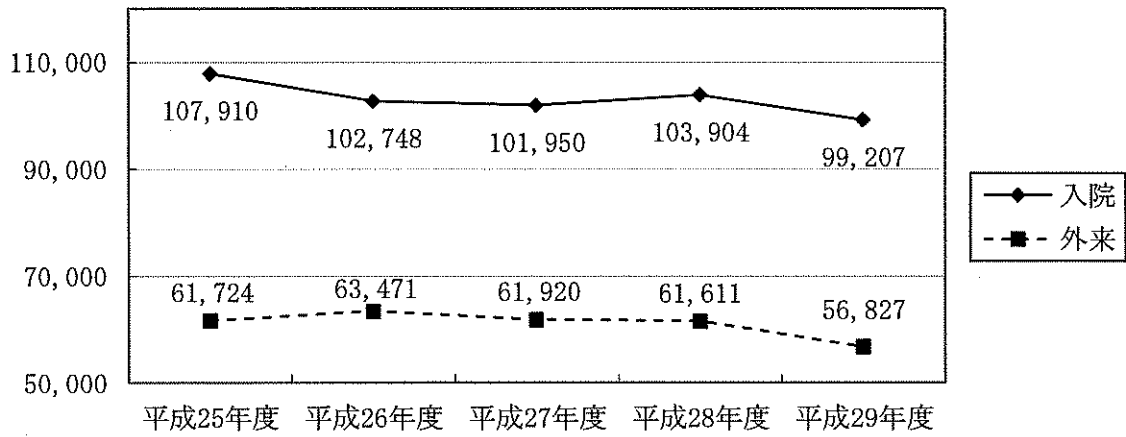
純損益は、前年度に比べ 1,554 万円改善し、1,333 万円の黒字となっています。

(総収益と総費用の推移のグラフは 15 頁に掲載)

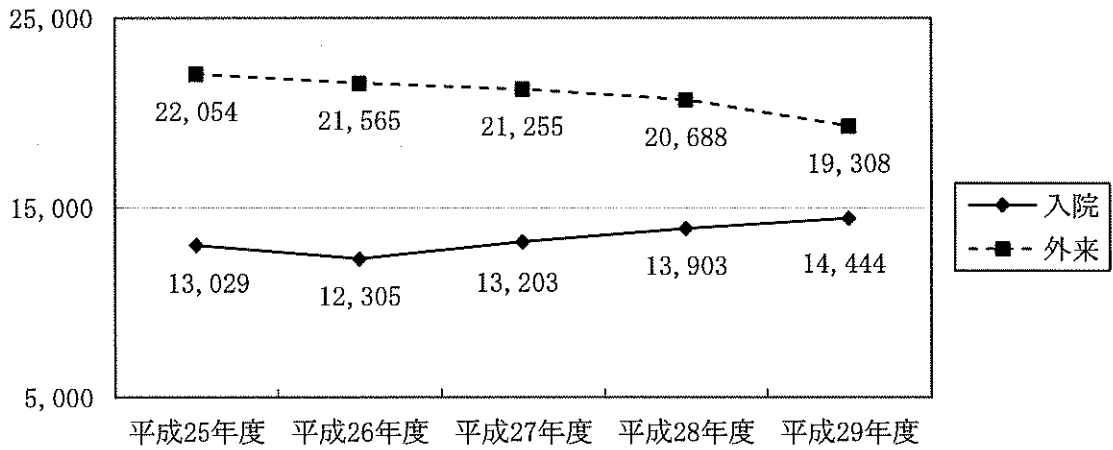
(参考)

患者数の推移 (単位:人)

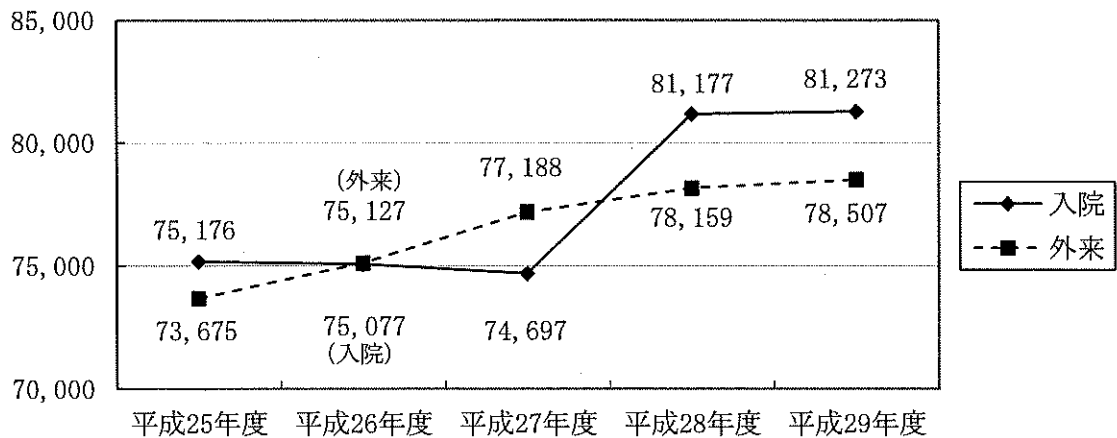
こころの医療センター



一志病院

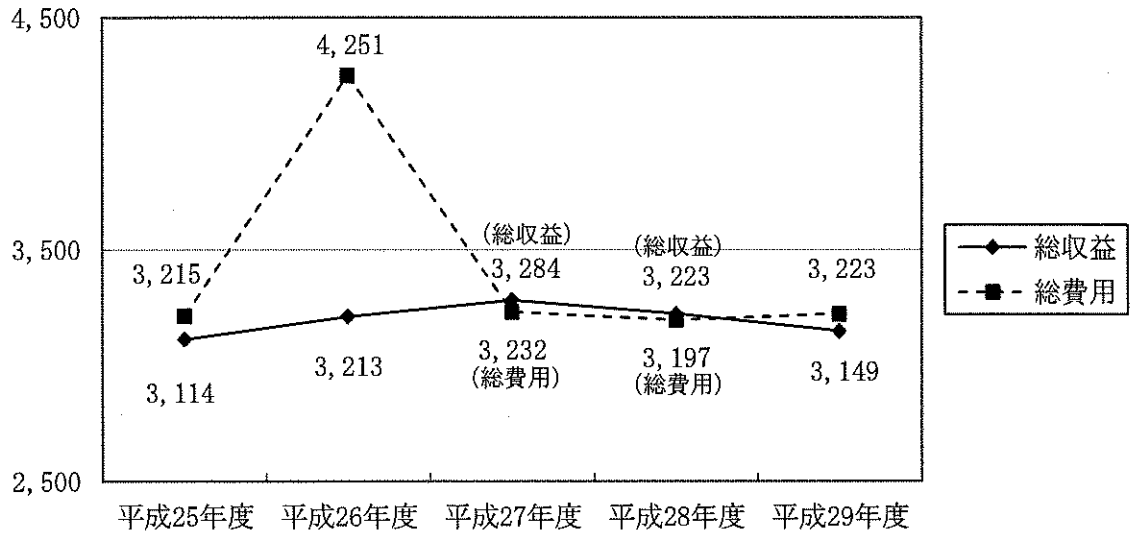


志摩病院

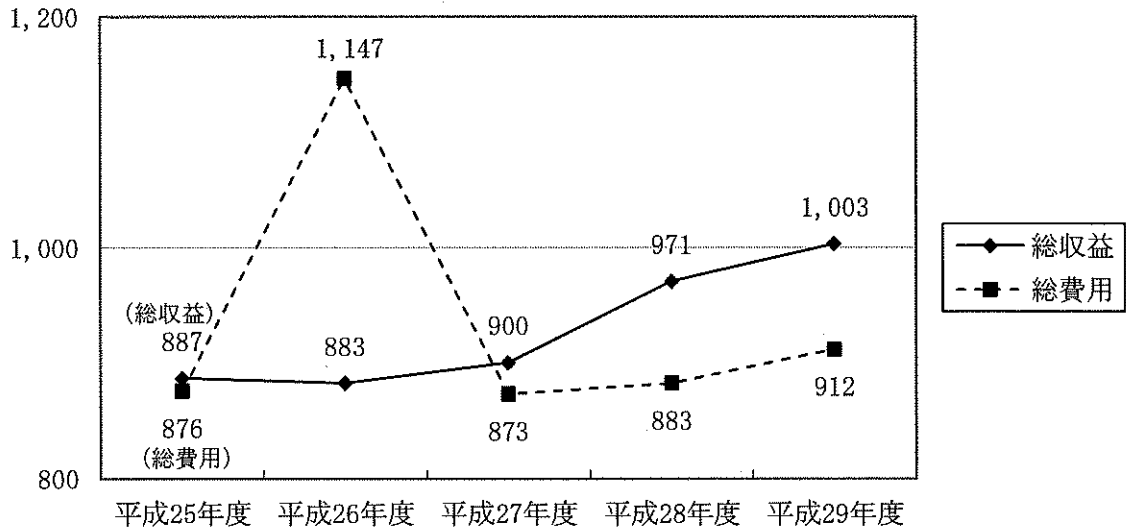


総収益と総費用の推移 (単位：百万円)

こころの医療センター



一志病院



志摩病院

